

令和5年度 専門研修（断続研修） 代表授業研修会

「授業分析の方法について」

福岡教育大学 本多 壮太郎

R5.10.24 (火) 於 福智町立方城中学校

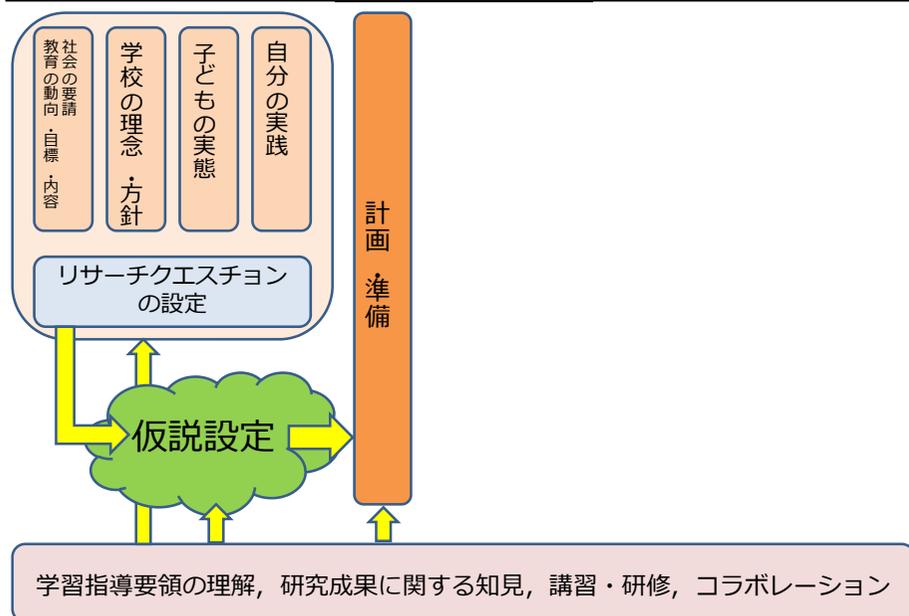
本日の授業研修会・授業分析のねらい

- 個人研究テーマに基づいた代表授業研修会を実施することにより、代表者の実践的指導力及び参観者の授業分析力を高める

+

単元計画・（全体的・局面的）学習内容・教授＝学習過程における教材・アプローチ（仕掛け）等の有効性・改善案を検証し、
「知の共有」につなげていく。

授業研究イメージ



- 方城中学校について

- 生徒について

- 自身の実践の振り返りについて

本時の指導目標及び評価規準（評価方法）について

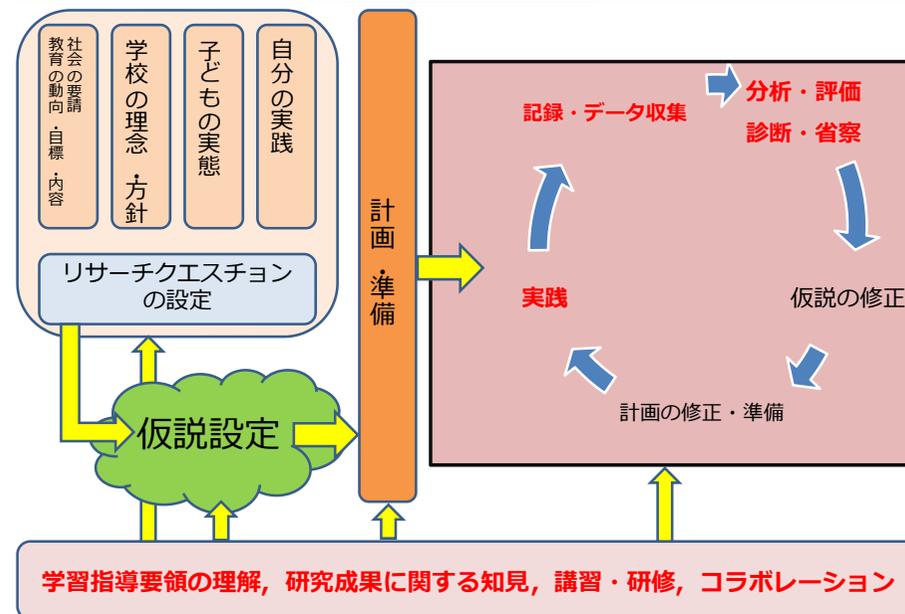
指導目標

自分課題を発見し，提供された運動のコツや練習方法の中から課題解決に有効な練習方法を選択できるようにする。（思考力，判断力，表現力等）

評価規準（評価方法）

提供された練習方法から，自己の課題に応じて，技の習得に適した練習方法を選んでいる。
（ロイロノート）

授業研究イメージ



記録・データ収集：リフレクションシート活用

ねらい

「リフレクションシート」を使った授業観察，分析，協議会のあり方を演習する（データの活用）

視点をもって授業を観察，分析，評価，診断，省察し，授業力，分析力，省察力の向上を図る

仕組みと仕掛け

仕組み：何かを動かすための土台となるもの構造や骨組み

仕掛け：その構造や骨組みを使って思うような動きにするための工夫

仕組みなしでは仕掛けは意味がない

仕掛けなしでは仕組みはよりよく機能しない

2つはセット

本時の指導目標

自己の課題を発見し、提供された運動のコツや練習方法の中から課題解決に有効な練習方法を選択できるようにする（思考力・判断力・表現力等）

(生徒の) 学習活動・内容	(教師の) 仕掛け (手立て)
準備運動, 予備運動, 前時の確認	怪我の予防のため, 種目の特性に応じた準備運動を行う
前時のビフォー映像を確認し, 自分の課題を発見する	それぞれが考えた運動のコツを共有するために, やって見た感想・行い方を掲示する
ワークシートに記入	ワークシート・共有シートの活用

(生徒の) 学習活動・内容

(教師の) 仕掛け (手立て)

自己の課題に応じた練習をする 【行うべき内容】 (1) 自分の体力に応じた技の練習をする (2) チャレンジしたい技のビフォー映像の撮影をする (3) 発表会へ向けた連続技の構成を考え, 練習をする 【練習のヒント】 (1) ビフォー映像を見て課題を掴む (2) 掲示された運動のコツを見る (3) 見本となる映像を見る (4) 他者からのアドバイスを受ける (5) 練習した内容や意識したポイントを記録する	技能の向上を実感するために, ビフォー映像との比較を行う ≪タブレットの活用≫ 他者から助言を受けやすくするために, 事前に見るポイントを仲間へ伝える ≪様相観察≫ ・練習方法を教える時間 ・自分で試してみる時間 ・他の人と共有する時間 ・自分で確定する時間
本時の振り返りを行う	課題解決のために, 有効な練習方法を選択することができたかを確認する (ロイロノート)

生徒の様相観察を行いましょう

生徒の姿	理由	具体的改善策
生徒の姿 何が起きたか	理由 どうして起きたか	生徒の姿 何が起きたか 理由 どうして起きたか 具体的改善策 だからどうするか

「み」ることを通して

メモを取り (授業中), まとめ, (授業後) 協議の材料にしましょう

(児童生徒たちだけでなく, 我々も)

「みる」ということ

見る (外面)

→診る (評価・診断)

視る (多角的)

看る (気を配って世話的に)

回る (階層的に過去を踏まえて)

観る (内面を観る)

鑑みる (手本に照らしたり, 他と比べたりして考える)

「観察」とは,
「み」抜いて
「察する」こと

様々な「み」ることで, 思考する, 試行する材料を得る, 思考力を高める, 志向する

リフレクションシートの活用 (観察結果の分析, 評価, 診断)

- 出来事 (の分析・評価)
- 原因 (の診断)
- 改善策 (の提案)

→仮説の修正

→計画・準備の修正

省
察

分析・評価とは

分析：結果（出来事・事実）を明らかにすること
→得られた結果を説明する（どのような結果が得られたのか）

分析には視点が必要である

評価：結果を判断すること
→得られた結果の善し悪しを説明する（成果として十分か否か）

- 同じ対象者における過去との比較で
- 異なる対象者の同一・類似課題への取り組み成果との比較で

診断・省察

診断：結果をもたらした原因を探ること
→得られた結果の原因を説明する（どうしてその結果は得られたのか）

* 考察は、評価・診断したことが研究においてどのような意味を持つのか検討すること

省察（リフレクション）

- 実践過程・結果を反省的に振り返る
- 準備・計画時の思考・想いなども含めて振り返る
- 自分自身を主観的・客観的両方の立場から振り返る



改善へ（仮説・計画の修正へ）

授業改善に求められる力量

省察力

我々（教員）は「反省的实践家（reflective practitioner）」である。

リフレクション（reflection）

- 行為の中での省察（reflection in action）
状況と対話しながら瞬時に思考し行動すること
- 行為についての省察（reflection on action）
行った思考や理解の意味をふり返り、考えること

(Schön, 1983)

マット運動の主な技の例示

文部科学省 (2018, p.77)

系	技群	グループ	基本的な技 (主に中1・2で例示)	発展技
回転系	接点	前転	開脚前転→	伸膝前転
			→	
			倒立前転	跳び前転
	ほん転	後転	開脚後転	伸膝後転→後転倒立
			倒立回転・倒立回転跳び	側方倒立回転跳び1/4ひねり (ロンダート)
倒立ブリッジ→			前方倒立回転→前方倒立回転跳び	
平均立ち	片足平均立ち	片足正面水平立ち→	片足側面水平立ち, Y字バランス	
		倒立	倒立→ 倒立ひねり	

器械運動系 思考力, 判断力, 表現力等

小学校 第1・2学年	(2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに, 考えたことを友達に伝えること。
第3・4学年	(2) 自己の能力に適した課題を見付け, 技ができるようになる活動 を工夫するとともに, 考えたことを友達に伝えること。
第5・6学年	(2) 自己の能力に適した 課題の解決の仕方 や 技の組み合わせ方 を工夫するとともに, 自己や 仲間の 考えたことを他者に伝えること。
中学校 第1・2学年	(2) 技などの自己の課題を 発見し, 合理的な解決 に向けて 運動の取り組み方を工夫 するとともに, 自己の考えたことを他者に伝えること。
中学校 第3学年 ・ 高等学校 入学年次	(2) 技などの自己や 仲間の 課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに, 自己の考えたことを他者に伝えること。
高等学校 入学年次の 年次以降	(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための 自己や仲間の課題を発見し, 合理的, 計画的 な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに, 自己や 仲間の 考えたことを他者に伝えること。

器械運動系 学びに向かう力, 人間性等

小学校 第1・2学年	(3) 運動遊びに進んで取り組み, 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり, 場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。
第3・4学年	(3) 運動 に進んで取り組み, きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり, 友達 の考えを認めたり, 場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。
第5・6学年	(3) 運動に 積極的 に取り組み, 約束 を守り 助け合っ て運動をしたり, 仲間の考えや 取組 を認めたり, 場や器械・器具の安全に 気を配 ったりすること。
中学校 第1・2学年	(3) 器械運動に 積極的 に取り組むとともに, よい演技を認めよう とすること, 仲間の学習を援助しよう とすること, 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めよう とすることなどや, 健康・安全 に気を配ること。
中学校 第3学年 ・ 高等学校 入学年次	(3) 器械運動に 自主的 に取り組むとともに, よい演技を 讃えよう とすること, 互いに助け合い教え合おう とすること, 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を 大切にしよう とすることなどや, 健康・安全を確保 すること
高等学校 入学年次の 年次以降	(3) 器械運動に 主体的 に取り組むとともに, よい演技を 讃えよう とすること, 互いに助け合い高め合おう とすること, 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を 大切にしよう とすることなどや, 健康・安全を確保 すること。

参考文献

文部科学省 (2018) 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 保健体育編. 東山書房.
Schön, D. (1983) The Reflective practitioner : How Professionals Think in Action, Basic Books.